



〇〇の秋と言われますが、先生方にとっては、何の秋でしょうか？11月の学習目標は、「本を読んだり、物語を聞いたりして、本に親しもう」です。読書の秋が到来です。本を読む、物語を聞くだけではなく、経験したことや考えたことを周囲に伝え、共有できると嬉しいですね。今回は、経験したことや考えたこと等の思考を整理する手段の一つとして、「考える図」を用いて読書感想文を書く例を掲載します。

関連：横手のスタンダード P3「考えたことを表出する機会が保障されている」

★「考える図」を使うと、「何を考えたか」「どうやって考えたか」が見えるようになり、そうして考えたことを、他の人に分かりやすく伝えることもできます。図を使うことで自分にも他の人にも、考えた筋道とその結果がはっきり分かるようになります。

① あらすじと感想を書き出す

1 本の題名と作者、登場人物、あらすじを書き出す
まず、本の題名と作者について書く。その下の最初の白箱におもな登場人物、つぎからおもなできごとを書き、あらすじをまとめる。

「本の題名」作者 「注文の多い料理店」 荒川真治作	作者について ほか「鯉河鉄斎の娘」「蘭の文三郎」などを書いた	
おもな登場人物 ふたりの若い紳士 2ひきの白い犬 山籠軒の中にいるもの	あらすじ ふたりの若い紳士が 山に籠りにいく	白い犬2ひきがか 死んでしまうが、 ふたりは捕まえたど くやしがる

2 あらすじの下に、場面ごとの感想を書く
どの部分からそう思ったのかわかるように、言葉を書きうつしたり、ページ数をメモしたりしよう。

ふたりの紳士は 道にまよって おながへる	西洋料理店 山籠軒をみつける	店に入ると、壁に 文章が書いてある	ふたりの紳士は へんな注文にしたがう
----------------------------	-------------------	----------------------	-----------------------

感想

- 山の中にお店があるのがふしぎ
- どうしてうたがわれないの？「読ったお方や若い方は、天鼓道」(〇ページ)
- すこしずつ注文されるのがおもしろい

3 とくに大事なことに印をつける
あらすじと感想から「第一」と「第二」に大事なところを選んで印をつけよう。選んだ理由も近くに書こう。

西洋料理店 山籠軒をみつける (ふしぎなことがはじまるから)	店に入ると、壁に 文章が書いてある (いちばんおもしろい場面だから)
どうしてうたがわれないの？ 「読ったお方や若い方は、天鼓道」(〇ページ) (いちばんふしぎに思ったから)	すこしずつ注文されるのがおもしろい (だんだんへんてこになるから)

理由を書くと、なんでそう思ったかあとからわかるね。

4 全体の感想を一文にまとめる
印をつけたところを見なおして、この本全体の感想を一文にして感想の下に書こう。

こうだな。

自分のことだけ考えていると、大事なことに気づかない

これで、「(瀬番の命)」が完成！

今年度の教育課程の柱の一つは、「本に親しむ児童生徒を育てる」です。

②感想を中心にして書く

〈まよめ三角〉にあてはめよう

1 本の題名、作者 作者について

2 おもな登場人物 あらすじ

感想

全体の感想

1と5

〈順番の図〉

3 4

〈まよめ三角〉

初め
いいいたいこと

中
その理由3つ

終わり
もう一度いいいたいこと

なるほど!

1. 本の題名、作者について 全体の感想
2. おもな登場人物とあらすじ あらすじは印をつけたところはくわしく、ほかはかんたんに書く。
3. いちばん大事だと感じた感想とその理由
4. 二番めに大事だと感じた感想とその理由 印をつけた感想と全体の感想について書く。本のどの部分からそう思ったのか、理由も説明しよう。
5. もう一度 全体の感想

感想文の題は、書名や、全体の感想からつけるといいね。

〈まよめ三角〉

初め
いいいたいこと

中
その理由3つ

終わり
もう一度いいいたいこと

5 4 3 2 1

「建文の多い料理店」を読んで
ぼくは、宮川賢治先生の「建文の多い料理店」を読みました。高円寺のそばに「建文の多い料理店」の店があるのを知っていました。

この本を読んで考えたのは、自分のことだけ考えていると大事なことになりつけないということです。

この物語のおもな登場人物は、ふたりの若い紳士「ひさの白い犬」そして山崎野村にいます。

あるとき、ふたりの若い紳士が山崎野村にいくと、つれていった白い犬、ひさの犬が死んでしまいました。ふたりは悲しくてたたくやじがります。そのあと、ふたりは西洋料理店、山崎野村を訪ねて中に入ります。中の扉には宮川の建文が書いてあるように書いてあり、ふたりは建文に話しかけて進んで、やがておどろき、ひとを驚かすための話だと思えます。その死んだはずの犬が、ふたりは助けられます。

印象的だったのは、紳士たちがうたがわなかったことです。店には「思ったとおりやろいお方は、犬は死んだら（ハート）と書いてあり、あやしいです。犬が死んでも自分の損ばかり考えていたふたりだから、あやしくても自分にどうよく考えて、気づかないのだと思えました。自分中心に考えるのは、自分のためにもなりません。

もうひとつ思ったのは、まじまじと建文を読んでもおもしろいです。建文がだんだんへんごになるの、うさぎはどんなか、ふたりの紳士はいつ頃なのか、ドキドキしました。

このように、ぼくは自分の本を読んで、自分中心に考えないで、大事なこと「気づくこと」がたいさうだと思えました。

書いた!

ちゃんと感想文だ。



上記の本の内容を抜粋して用いています。

記載した内容は、読書感想文についてでしたが、普段の日記や行事に関する作文を書く際にも、用いることができますね。

考える図を用いる利点は、考えたことやその筋道が見え、他者と共有できることです。また、本人の思考の整理にもつながります。児童生徒が考えを整理し、表出していけるように、実態に合わせて思考を整理する手段も工夫していきたいですね。